



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.2.25 No. 4740

抜本的な仕業緩和-運転保安を確立しよう！

98.3ダイ改交渉始まる！

ダイ改交渉報告(その1)

新たな分割・民営化Ⅱ大合理化攻撃との前哨戦となる九八・三ダイ改闘争の団体交渉が一七日から開始された。

今回の団体交渉では、すでに日刊労働千葉「四七三四号」(二月一二日付)で明らかにしたとおり、労働者が人間らしく働き、運転保安を確立するための基準を要求し、実現するために当局を徹底的に追及してきた。団体交渉でんやりとりについては、以下の要旨のとおりとなっている。

食事時間、睡眠時間確保は最低の基準だ

組合 動労千葉からの申し入れを見ればあきらかだが、労働時間Aを除いて朝食三〇分以上、昼・夕食四〇分以上、睡眠時間は五時間以上、また、拘束時間についても日勤行路九時間以内、泊行路二〇時間以内、泊行路の出勤時間は一三時以降、退区時間は一二時以前、折り返し時間は一〇分以上、次の行路に就くまでの時間は前行路の労働時間Aを確保することなどについては、今の実態を見て申し入れたものだ。まったく無茶なことではない。「休憩時間」については、運転士は除外されているが、運転士こそ休憩時間が必要な会社 会社としても、目標値を

目指してはいる。

組 徒歩時間を分単位で決めたのなら、食事時間や睡眠時間についても分単位できちんと決めるべきだ。

会 ここ二、三年で時間を取るようなシステムを作ってきている。

組 基本的なことは何も変わっていない。変わったと言うのが、変わったことすら分からない状況ではないのか。安全問題で言えば、限界にきていることは事実だ。

会 固く言えば就業規則を基準に作成するようになる。

組 運転士の場合、ダイヤが出てきたときにトイレのことをまづ考えるようになる。現場でも「トイレになるから食事を取らない」という運転士もいる。しかも、予備の時には全く気にならないが、ハンドルを持つともうの凄く気になるというのが実情だ。

拘束時間についても、遅いアケは運転士の体にきいてくる。要員のにも一人多くなると相当解決できる部分がある。

さらに、精神的もきつくなっている、そのために事故が増えていると思われる。会社も「安全、安全」と言うが、精神的な部分が相当に大きい。

会 A-T-S-I-Pや保安装置などでバックアップしながら安全を

確保できるようにしている。

組 A-T-S-I-Pがあるから運転士の負担を減らすなどということはない。A-T-S-I-Pになったから逆にきつくなったということとも言えるのだ。

会 食事時間や睡眠時間、長太行路については、これまでも改善してきたつもりだが、今後も行なっていく。

職場では、大月事故の問題を話す雰囲気もなく

組 指導員や指導操縦者の指定、日常的な指導・訓練、技能競技会や運転士などを対象にしたサ

ービス検修の中止、三ヵ月間乗り入れていない線区については事前の線見訓練を行なうことなどは、大月事故を踏まえて申し入れている。

会 個人別の情報を各区毎に入力して、自動的に出てくるようにしている。これは、大月事故に踏まえたものだ。

組 指導員の要請についても、一〇年のウミが出てきている。

出発信号機と入換信号機を間違えるなど考えられないことだ、日常の指導のあり方もメチャメチャだ。結局、労務政策の優先を直さないと現状は直らないということだ。

会 大月事故を考えると、今の指導・教育を見なおさなければいけないと考えている。地道に教育していかなければならない

と考えている。

組 今の職場では、大月事故の話を詰所でしようという雰囲気もない。以前は、他の運転士の事故は、自分にも起こると思うから色々話すことがあった。

さらに、「大月事故は個人事故だから、うちの組合では話す必要がない」ということを言う運転士もいる。結局、今の会社の姿勢のままでは、そういうことを話す雰囲気がないということだ。

会 各区を回ってきたが、そういう雰囲気があるならば、改めるようなことをしていきたい。

組 大月事故は、これまでのあり方を根本から変えなければならぬということを出し出している。今の運転士養成体系では、運転士として譲れないところを教えるということがなくなっている。まさに、会社の姿勢の問題だ。

会 基本的なことを繰り返し行なうことがいいのかどうかも含めて、どういう訓練を行なうかを検討していきたい。

組 訓練の最後には「指令の指示に従え」というが、これが今一番問題になっている。

会 従ってもらうことが基本になる。

組 指令の指示でも間違っていたら従わない、指示された後も考える運転士をどのように養成していくのが問題なのだ。

(つづく)